

## La mode illustrée : journal de la famille (ラ・モード・イリュストレ)

Paris : Firmin Didot, 1860—1937

Hiler p.619 Colas 2082 Lipper. 4690

「モード画報」の意で、19世紀後半に現われたモード誌のうちでは最も重要なものの一つ。1860年に始まり、1930年代末まで続いたフォリオ判の大型雑誌で、そのほとんどをカバーすることができたのは、むしろ僥倖<sup>ぎょうこう</sup>というべきであろう。この雑誌は毎週日曜日に、2万部程度発行されたといわれる。

他方、このモード誌は婦人用下着を初めて掲載した雑誌の一つである点でも知られており、トリミングのレースや刺繍までが綿密に描写されてはいるものの、この場合の人体そのものは省かれている。当時一般のモード誌では、下着やコルセットを描き出すことはタブーとされていたが、本誌は——人体を抜きにしてではあるが——それを大胆にやってのけたというわけである。

本誌はまた、手彩色のプレートのほとんどすべてが抜群に優れている点でも知られており、とりわけそれらは、19世紀中期に活躍したフランスの有名なモード画家三姉妹によって描かれていることに起因している。三姉妹とは、19世紀前半のフランスで活躍した画家であり、石版画家として知られるアレクサンドル＝マリー・コラン (Alexandre-Marie Colin 1798—1875) を父とする3人の娘たちで、長女のエロイーズは画家のルロワと結婚したためエロイーズ・ルロワ (Héloïse Leloir 1820—1874) と称し、マリトン店と契約して1855年以来「ラ・ベル・アッサンブレ」誌のプレートを担当した。次女のアデル・アナイス (Adèle Anaïs 1822—1899) は1845年にG. A. トゥードゥーズと結婚してアナイス・トゥードゥーズ (Anaïs Toudouze) を名乗ったが、それ以前のサインはアナイス・コラン (Anaïs Colin) を用いている。本誌や「ル・フォレ (Le follet)」誌に多く描いており、そのあとを娘のイザベル (Isabelle Toudouze) に引き継いでいる。三女のローラは結婚してローラ・ノエル (Laure Noël 1827—1878) を名乗り、本誌や「ジュルナル・デ・ドゥモワゼル」誌などのプレートの原画を描いた。数は少ないが、彼女の初期のサインはローラ・コラン (Laure Colin) である。彼女たちの作品は有名なガヴァルニ (Gavarni 1804—1866) やダヴィッド (Jules David 1808—1892) らの石版画プレートとともに、1830年から1890年までの60年間を華やかに飾っており、19世紀中期のモード画家として中心的な役割を果たした。

なお、本館には、三姉妹による本誌の原画アルバム35巻、計1788枚——これは世界に一例だけなわけであるが——が別に所蔵されている。

(石山 彰)

『文化女子大学図書館所蔵 欧文貴重書目録 解題・目録』より転載



1861年1月1日号表紙



1865年3月26日号



1868年5月17日号 A. トウドゥーズ画



1872年8月4日号 H. ルロワ画